

認知症高齢者における作業療法プログラムへの嗜好調査

宝来知世、井上景子、谷本愛子、出水麻子

医療法人聖志会渡辺病院

【はじめに】認知症高齢者に対する薬物療法の効果は十分といえず、認知リハビリテーションは重要である。しかし認知症高齢者への認知リハビリテーションとして作業療法を行う場合、嗜好が合致せず、導入、実践が困難である場合がある。今回、作業療法に参加される認知症高齢者の嗜好の傾向を、年齢、性別、主病名、HDS-Rから調査分析したのでその結果を若干の考察を加えて報告する【対象】平成23年2月時点の入院患者336名の中で、HDS-Rが1点以上で、認知症と診断されている方213名を対象とした。男性93名女性120名。HDS-R 1～10点：129名、11～20点：65名、21～30点：19名。主病名：アルツハイマー型認知症150名、脳血管性認知症18名、混合型認知症3名、レビー小体型認知症8名、アルコール性認知症28名、その他5名【方法】平成23年2月1日から2月28日までの入院患者様に作業療法の画像（①カラオケ②映画③ゲーム④塗り絵⑤書道⑥貼り絵⑦季節の行事⑧編み物⑨園芸⑩散歩）を提示し、好むものを指差しする形で実施【倫理的配慮】病院管理者の許可、ご本人ご家族の同意を取得し、当院の倫理委員会の承認を得た。【結果】有効な回答は162名。カラオケ43名、映画鑑賞26名、貼り絵3名、塗り絵5名。男性、女性とも、カラオケを一番好み、男性はゲーム、女性は編み物を好む傾向があり、重症度別では全てでカラオケを一番好んでいた。【考察】病名、性別、重症度に関係なく、カラオケ・映画鑑賞に人気があり、塗り絵・貼り絵は人気がなかった。認知症の方は、参加の形態が能動的なものより受動的なものを好む傾向があると思われる、今後個々の好みに合わせた作業療法を導入し、楽しんで参加して頂くことが課題と考えられた。